

野鳥に会いに行こう

大和市には鳥に会える場所がたくさんあります。林ばかりでなく街なかや水辺もおすすめ。このハンドブックを片手に鳥に会いに行きましょう。



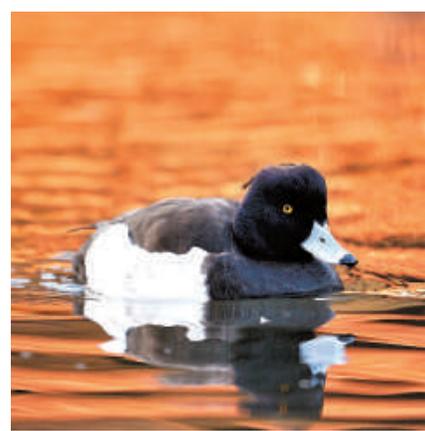
どこにいるかな?



※緑地や公園にはそれぞれルールがあるので守りましょう。

大和の自然ハンドブック③

野鳥



大和市

大和市はほぼ平らな相模野台地の上にあるため人が住みやすく、多くの人々が生活しています。しかし市内にはまだ大きな林や小さな緑地がいくつか残されていて、この限られた自然の中に多くの生き物たちが生活しているのです。

今回の「大和の自然ハンドブック」では、その中から自然の中で生きる鳥たち、野鳥について取り上げました。

市内で見られる野鳥は毎年約80種類です。野鳥を探すことは難しいことではなく、少しの時間があれば身近な場所でも観察できます。この本で紹介するのは市内で見られるおもな野鳥、約70種類。観察するときに役立ててください。

大和市の鳥、オナガ

市の鳥はオナガです。「市内で多く観察され、色や姿が優美で、尾を広げて飛び立つ姿が未来へ向け飛翔する大和を象徴する」ことから選ばれました。



イラスト：赤松義幸



(A)

↑2羽で飛ぶオオタカ(ディスプレイフライト)



(H)

↑花を食べるヒヨドリ



(Nm)

↑夕方、電線にとまるムクドリの大群

大和の自然ハンドブック

表紙の野鳥

野鳥

- ① オナガ(細宮喜代子)
- ② カワセミのオス(中村美津子)
- ③ キンクロハジロのオス(小林勉)
- ④ メジロ(小林力)

※カッポ内は撮影者

野鳥の観察はいつでも、どこでもできます。身近なところから探してみましょう。



冬は木の葉が落ちて林が明るくなり、水辺には多くの水鳥がやってくるので、観察に適しています。



野鳥は近くで見られるとは限りません。はっきり見るためには双眼鏡があると便利です。



さえずりを聞いたり、行動をよく見たりしてみましょう。鳥の名前が分からなくても楽しく観察できます。



いろいろなところで野鳥の観察会が行われています。鳥の話が聞けるので参加してみましょう。

やってはいけないこと



野鳥は大きな音や激しい動きが嫌いです。近づきすぎたり、追い回したりしてはいけません。

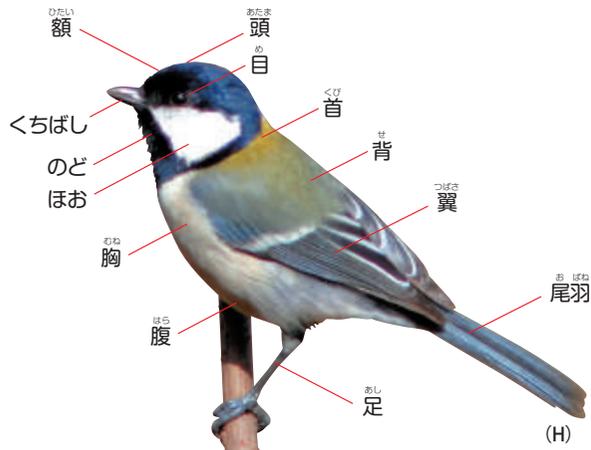


野鳥は自然の中で生きています。エサをやると自分でとらなくなることがありますし、人間の食べ物、鳥には害になることがあるので、エサをやってはいけません。

- ・ 双眼鏡で太陽や人の家のある方向を見てはいけません。
- ・ 人の家の庭や畑にかけてははいけません。

鳥の体の各部の名前

写真はシジウカラ



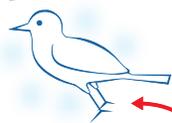
鳥の羽毛は生えている場所によって形が違います。

鳥には翼があって空を飛ぶことができ、2本の足で歩いたり木にとまったりします。体は羽毛で覆われていて、くちばしを持ち、歯はありません。木の枝や草などを集めて巣を作り、多くの種類の鳥が卵からかえったヒナにエサを与えて育てます。

歩きかたと飛びかた

鳥は種類によって歩きかたや飛びかたに特徴があるので、種類を調べるときの参考になります。どんな動きかたをするか観察してみましょう。

歩きかた



ホッピング… 両足をそろえてはねる
スズメ、シジウカラ、カラスなど



ウォーキング… 片足ずつ前に出す
ムクドリ、ハト、カモ、カラスなど

※どちらの歩きかたもできる鳥がいます。

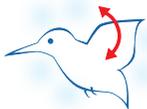
飛びかた



波状飛行… 波をえがくように上下に飛ぶ
ヒヨドリ、セキレイ、キツツキなど



直線飛行… まっすぐ飛ぶ
ツバメ、カワセミ、ムクドリ、ハト、カモなど



ホバリング(停空飛翔)
… 空中の1点ではばたく
カワセミ、ヒヨドリ、ノスリ、
チョウゲンボウなど

草はらや畑の鳥

モズ(モズ科)



秋冬 M O

渡鳥または留鳥。オスは目を横切る黒い帯がはっきりしていて、メスは腹にうろこ模様がある。肉食で、捕まえた虫やハ虫類などを「はやにえ」として枝に突き刺す行動が見られる。「キチキチ」と鳴き、オスはほかの鳥のさえずりもまねする。

見られる場所

この本では見られる場所ごとに分けて鳥を紹介しています。

鳥の名前

科の名前

科とはその鳥が含まれるグループのことです。

鳥の写真

その鳥の特徴が分かる写真です。オスがメスと分かるものは写真の中に書いてあります。写真右下のアルファベットは撮影者を表します(19ページ参照)。

鳥の説明

その鳥についての説明です。姿や鳴き声などについて書いてあります。

渡り… 季節によって移動(渡り)をする鳥がいます。説明のはじめにその鳥が日本でどのよう渡りをするか(またはしないか)を書いてあります。※渡りについては「山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥」を参考にしています。

夏鳥… おもに春から夏に見られます。日本で子育てをするために南の国から渡ってくる鳥です。

冬鳥… おもに秋から冬に見られます。日本で冬を越すために北の国から渡ってくる鳥です。

漂鳥… 季節に合わせて日本国内を移動する鳥です(大和市では秋から冬に見られます)。

留鳥… 一年中見られます。渡りをしない鳥です。

旅鳥… 春と秋に見られます。北から南へ(またはその逆)の渡りの途中で立ち寄るだけの鳥です。

写真の下のマークの説明

見られる季節… 大和市でその鳥がおもに見られる季節を表しています。

大きさ… 鳥の大きさは身近な鳥を基準として4段階で表しています。

春… 3~5月

夏… 6~8月

秋… 9~11月

冬… 12~2月

S… スズメと同じくらいか、それより小さい

M… ムクドリくらいの大きさ

L… ハトくらいの大きさ

LL… カラスと同じくらいか、それより大きい

見つけやすさ… その鳥が大和市でどれくらい見つけられるかを表しています。

◎… とても見つけやすい

○… 見つけやすい

△… すこし見つけにくい(少ない、または見られる期間が限られている)

スズメ (スズメ科)



春夏秋冬 S ◎

留鳥または漂鳥。茶色の頭とほおの黒い模様が目立つ。人の家の近くなどで暮らし身近な鳥だが警戒心が強い。雑草の種などを食べる。「チュンチュン」と鳴き、「チュリリ」とさえずる。冬には大きな群れを作って行動する。

シジュウカラ (シジュウカラ科)



春夏秋冬 S ◎

留鳥または漂鳥。白いほおが目立つ。胸のネクタイのような黒い帯は、オスでは太く、メスは細い。おもに虫を食べる。木にあいた穴などに巣を作り、巣箱もよく使う。「ツツピー」と繰り返しさえずる。林にもいる。

メジロ (メジロ科)



春夏秋冬 S ◎

留鳥または漂鳥。うぐいす色(黄緑色)の体に、目のまわりの白い縁どりが目立つ。木の上で生活し、虫や木の実を食べるほか、ウメ、サクラ、ツバキなどの花の蜜を吸う。林にもいる。冬になるとシジュウカラやエナガなどと群れを作る。

ハクセキレイ (セキレイ科)



春夏秋冬 M ◎

漂鳥または留鳥。ほおが白く、背は灰色か黒。長い尾羽を上下に振りながら歩き、小さな虫を捕まえて食べる。「チュチュン、チュチュチュン」と鳴きながら波状に飛ぶ。街なかではコンクリートの道路にすることがあり、水辺にも多い。

オナガ (カラス科)

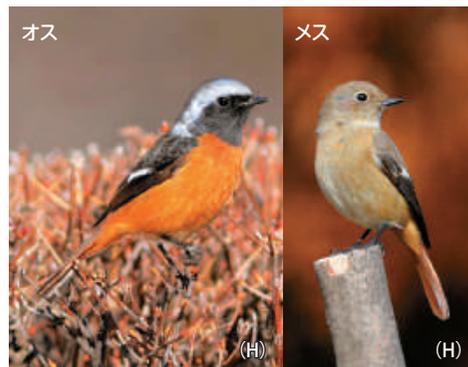


春夏秋冬 L ◎

市の鳥

留鳥。頭は黒く、翼と長い尾羽は水色。群れて行動することが多く、敵を追いかけて攻撃するような動き(モビング)も活発に行う。「ギュー」と短い声や「ギューイ、キューキューキュー」と複雑な声で鳴く。林にもいる。

ジョウビタキ (ヒタキ科)



秋冬 S ◎

冬鳥。オスは灰色の頭に黒とオレンジ色の派手な姿。メスは全体にうすい茶色だが、オス・メスともに翼に白い紋がある。低い木の枝先などにとまり、おじぎをしたり尾羽をふるわせる。「ヒッ、ヒッ」や「カッカッ」と鳴く。林にもいる。

ハシブトガラス (カラス科)



春夏秋冬 LL ◎

留鳥または漂鳥。くちしが太く、額が出っばっている。「カーカー」と澄んだ声で鳴く。

ハシボソガラス (カラス科)



春夏秋冬 LL ◎

留鳥または漂鳥。くちしは細めで、額を出っばらない。「ガーガー」とにごった声で鳴く。

カワラバト (ドバト) (ハト科)



春夏秋冬 L ◎

留鳥。外来種で、公園や神社などにたくさん住みついている。体の色や模様はさまざま。

ツバメ (ツバメ科)



オス

夏鳥。のどと額が赤く、V字型の長い尾をもつ。家の壁などに泥でわん型の巣を作る。

アトリ (アトリ科)



オス

冬鳥。多く見られる年とほとんど見られない年がある。草木の種などを食べ、林にもいる。

ムクドリ (ムクドリ科)



春夏秋冬 M

留鳥または漂鳥。黒っぽい体で、目のまわりやほおが白い。くちばしと足はオレンジ色。「ギュルッ」「ジェー」などさまざまな声で鳴く。群れで行動し、秋冬には数万羽もの大きな群れを作っ

ヒヨドリ (ヒヨドリ科)



春夏秋冬 M

留鳥または漂鳥。全身灰色でほおが茶色い。大きな声で「ヒーヨ」と鳴き、波状に飛ぶ。木の実や花の蜜が好きで、カキや庭木のピラカンサなどの木の实や、花(つぼみも)をよく食べる。畑や林にもいる。日本とその近くの国にしかない。

カワラヒワ (アトリ科)



春夏秋冬 S

留鳥(漂鳥)または冬鳥。ピンク色のくちばしや、飛んだ時に見える翼の黄色い帯が目立つ。尾羽は先が2つに分かれている。群れで草木の種などを食べる。高い声で「キリキリコロコロ」と鳴く。川原などにもいる。

イソヒヨドリ (ヒタキ科)



秋冬 M

留鳥または漂鳥。オスは頭や背が青で腹が赤。メスは灰色っぽく腹のうろこ模様が自立つ。ふわふわと飛び、とまる時はおじぎをして尾をふるわせる。夏は海岸の岩場で子育てをするが、冬は海から離れるものが多いので街なかでも見られる。

草はらや畑の鳥

モズ (モズ科)



秋冬 M

漂鳥または留鳥。オスは目を横切る黒い帯がはっきりして、メスは腹にうろこ模様がある。肉食で、捕まえた虫やハ虫類などを「はやにえ」として枝に突き刺す行動が見られる。「キチキチ」と鳴き、オスはほかの鳥のさえずりもまねする。

ツグミ (ヒタキ科)



秋冬 M

冬鳥。頭や背は黒っぽく、目の上に白いすじがある。翼は茶色だが、体の模様や色は濃さに差がある。少し歩いては止まるのをくり返し、止まる時は胸をそらすようにすることが多い。「キョッ、キョッ」や「ケケ」と鳴く。

ヒバリ (ヒバリ科)



春夏秋冬 S

留鳥または漂鳥。頭の羽毛(冠羽)が特徴だが寝かせていることがある。「ビュルッ」と鳴く。「ピリリ、チュクチュク」などと複雑な声でさえずり続けながら空高く飛び上がり、ホバリングをする。石の上などでさえずることもある。

ホオジロ (ホオジロ科)



秋冬 S

留鳥または漂鳥。顔がオスは白と黒、メスは白と茶色の模様。飛んだ時に尾の外側の羽が白く目立つ。枝先にとまって「チョッピーチーチョーツク」と早口で複雑にさえずる。地面に下りている時は「チチッ」と二音で鳴く。

チョウゲンボウ (ハヤブサ科)



秋冬 L

留鳥または漂鳥。翼が細長い小型の猛禽類。オスは頭と顔が灰色で、尾羽の帯は先端のみ。メスの尾羽には何本も帯がある。また、オス・メスともに目の下に縦の線があり、翼の裏に細かい斑がある。ひらひらと飛び、よくホバリングをする。

カワセミ (カワセミ科)



オス
春夏秋冬 S ◎
留鳥または漂鳥。頭や翼は光の当たりかたにより緑や青に輝く。くちばしはオスは上下とも黒、メスは下だけ赤い。水中に飛び込んで小魚やエビなどを捕まえて食べる。時どきホバリングをする。飛びながら「チー」とするどく鳴く。

マガモ (カモ科)



メス オス
秋冬 LL △
冬鳥または留鳥。くちばしはオスでは黄色く、メスは黒くてまわりがオレンジ色。

コガモ (カモ科)



オス
秋冬春 L ◎
冬鳥。市内に訪れるカモの中では最も小さい。オスは茶色の顔で目のまわりが緑色。

カルガモ (カモ科)



春夏秋冬 LL ◎
留鳥または冬鳥。オス・メスほぼ同色。くちばしの先が黄色。市内で一年中見られる唯一のカモ。

ヒドリガモ (カモ科)



オス
秋冬春 LL ◎
冬鳥。オスは茶色の顔で頭が黄色っぽい。「ビュー」と鳴く。よく陸に上がって草を食べる。

オシドリ (カモ科)



オス
冬 LL △
留鳥または冬鳥。オスは色とりどりの羽をもち、美しい。地上でドングリをよく食べる。

キンクロハジロ (カモ科)



オス
秋冬 L ◎
冬鳥。黄色い目が目立つ。メスは体全体が茶色っぽい。オス・メスとも冠羽がある。

カイツブリ (カイツブリ科)



春夏秋冬 M ◎
留鳥。水に潜って泳ぎ回り、小魚やエビなどを捕る。体が小さく、尾羽が短いので丸く見える。

バン (クイナ科)



春夏秋冬 L ◎
留鳥または冬鳥。黒っぽい体でくちばしは赤と黄色の2色、足は黄緑色。「クルル」と鳴く。

ホシハジロ (カモ科)



オス
秋冬 LL ◎
冬鳥。オスは茶色い顔に赤い目をしている。水に潜って貝やエビなどを捕る。

カワウ (ウ科)



春夏秋冬 LL ◎
留鳥。オス・メスともにカラスより大きな黒い鳥。背は光が当たると茶色っぽく見える。目は緑色。くちばしの先はかぎ状に曲がり、水に潜って魚などを捕まえる。ぬれた羽を乾かすために、翼を広げて日光浴をすることがある。

オオバン (クイナ科)



秋冬春 L ◎
留鳥または冬鳥。黒い体でくちばしと額が白く、目が赤い。雑食で草をよく食べる。

※カモの仲間のメスは茶色くて地味な種類が多く、慣れないうちは見分けにくいですが、大きさや顔かたちなどはオスに似ているので、近くにいるオスと見比べて少しずつ覚えましょう。

コサギ (サギ科)



秋冬春 LL ◎

留鳥または漂鳥。くちばしが一年中黒く、足の指が黄色い。オス・メスとも春から夏にかけて頭の後ろの2本の長い冠羽、胸と背にレース状の羽が目立つ。水中で足をふるわせて魚やザリガニなどを追い出してくちばしで捕まえることも多い。

ダイサギ (サギ科)



冬 LL ○

夏鳥または漂鳥、一部冬鳥。白いサギの中で最も大きい。長くくちばしは夏は黒く、冬には黄色くなる。また、オス・メスとも繁殖期の春から夏にかけては目の先が緑色になり、胸と背に飾り羽が目立つ。サギ類は長い首をたたくて飛ぶ。

アオサギ (サギ科)



春夏秋冬 LL ◎

留鳥または漂鳥。日本で一番大きなサギ。背が灰色で、頭の一部や肩に黒い羽が生える。若い鳥は全体が灰色で模様ははっきりしない。飛ぶ時に「グアー」と大きな声で鳴く。立ったまま翼を半分開いて、日光浴をすることがある。

ゴイサギ (サギ科)



冬春 LL △

留鳥。おもに夜に活動する。若い鳥は体全体が茶色で白い斑点が散らばりホシゴイと呼ばれる。

キセキレイ (セキレイ科)



秋冬 M ○

漂鳥または留鳥。胸から腹にかけてが黄色い。「チチン、チチン」と鳴きながら波状に飛ぶ。

セグロセキレイ (セキレイ科)



春夏秋冬 M ○

留鳥。ハクセキレイに似ているがほおが黒い。「ジジ、ジジ」と鳴きながら波状に飛ぶ。

タヒバリ (セキレイ科)



秋冬 S ○

冬鳥。「ピピッ」と鳴いて飛び立つ。大和市では川で見られ、田畑にいることもある。

イソシギ (シギ科)



春夏秋冬 M ○

留鳥。尾を上下によく振る。翼のつけ根に腹の白い部分が食い込む。川で見られる。

ユリカモメ (カモメ科)



冬 L △

冬鳥。くちばしと足が赤い。夏には頭と顔が黒くなる。泉の森でも見られるが、川に多い。

キアシシギ (シギ科)



春秋 M △

旅鳥。足が黄色い。「ピューイー」と澄んだ声で鳴く。川で見られることがある。

コチドリ (チドリ科)



春夏 S △

夏鳥。目のまわりの黄色い縁どりと首の黒い帯が目立つ。小石の多い川原のくぼみに巣を作る。

イカルチドリ (チドリ科)



春夏秋冬 M △

留鳥または漂鳥。目のまわりの黄色い縁どりは目立たず、コチドリよりくちばしが長い。

ヤマガラ (シジウカラ科)



春夏秋冬 S ○

留鳥または漂鳥。腹がオレンジ色。木の実をコツコツとつついて食べる。「ニーニー」と鳴く。

キビタキ (ヒタキ科)



春夏 S ○

夏鳥。オスは鮮やかな黄色と黒で、メスはうす茶色。木の高いところで、複雑な声でさえずる。

ウグイス (ウグイス科)



春夏秋冬 S ○

留鳥。うす茶色でやぶにすみ、「ジャツ」と鳴く。春には枝先で「ホーホケキョ」とさえずる。

エナガ (エナガ科)



春夏秋冬 S ○

留鳥または漂鳥。スズメよりずっと小さい。背と腹が淡いピンク色で、とても長い尾をもつ。「ジュリリ」という声で鳴き、群れで木の枝をいそがしく動き回りながら小さな虫を食べる。冬にはシジウカラやメジロなどと群れで行動する。

ルリビタキ (ヒタキ科)



秋冬 S ○

留鳥(漂鳥)。オスは頭から尾羽にかけて青い。メスや若いオスは尾羽だけ青くなる。

アオジ (ホオジロ科)



秋冬 S ○

留鳥または漂鳥。黄色い腹が目立つ。やぶや草はらで種を食べる。「チツ」と一音で鳴く。

シロハラ (ヒタキ科)



秋冬 M ○

冬鳥。顔が灰色で背が茶色、腹は白い。落ち葉をかき分け、ミズズや虫を探し出して食べる。

トラツグミ (ヒタキ科)



秋冬 L △

漂鳥または留鳥。夜に「ヒョー」とか細い声で鳴き、昔は「鵪」という妖怪の声と考えられた。

シメ (アトリ科)



冬春 S ○

冬鳥または留鳥(漂鳥)。ずんぐりとした体で、のどや目の先が黒い。飛ぶときに翼の白い帯が目立つ。太いくちばしを使い、木の上で、または地面で落ちている草木の種などを割って食べる。小さくするどい声で「チツ」「ツイー」と鳴く。

アカハラ (ヒタキ科)



秋冬 M △

夏鳥(一部留鳥)または冬鳥。腹はオレンジ色。声は「キョキョ」「ツイー」とシロハラに似ている。

マヒワ (アトリ科)



秋冬 S △

冬鳥または漂鳥。オスは顔や胸の黄色が目立ち、メスは色がうすい。群れていることが多い。

イカル (アトリ科)



冬春 M △

留鳥または漂鳥。黄色の大きなくちばしで堅い木の種でも割って食べる。「キョ、キョ」と鳴く。

ミソサザイ (ミソサザイ科)



秋冬 S △

留鳥または漂鳥。尾をよく立てている。「チャッ、チャッ」と鳴く。林の中の暗い小川にいる。

アオゲラ (キツツキ科)



春夏秋冬 M ○

留鳥。翼や背が緑色。「キョッキョ」「ピョー」などと鳴くほか、木の幹をくちばしで素早くたたいて「タラララ」という音も出す。キツツキ類はくちばしで木に穴を開け、中にいる虫を食べる。アオゲラは日本にしかない。

コゲラ (キツツキ科)



春夏秋冬 S ○

留鳥。背はこげ茶色と白のしま模様。オスは頭の後ろの両側に小さな赤い部分があるが、あまり見えることはない。「ギー」と声がきしむような声や「ギーキッキ」という声で鳴く。キツツキ類は尾羽を支えにして木の幹に縦にとまる。

ヒレンジャク (レンジャク科)



冬春 S △

冬鳥。冠羽があり、尾羽の先が赤い。よく似たキレンジャクは尾羽の先が黄色い。ヒレンジャクとキレンジャクは群れで行動することが多く、連雀の名前の由来の通り、並んでとまる。ヤドリギの実をよく食べ、ねばりのあるフンをする。

アカゲラ (キツツキ科)



オス

秋冬 M △

留鳥。腹の下のほうが赤く、背の白い逆八の字の模様が特徴。オスは頭の後ろが赤く、メスは黒い。鳴き声は「ケツ」と一音ずつ区切る。警戒すると、するとい声で小刻みにくり返す。畑や草地などの地上でエサを探ることがある。

カケス (カラス科)



春冬 L △

留鳥または漂鳥。ごま塩のような黒い斑が入った白い頭や、翼の白い線と水色の部分が目立つ。ふわりふわりと特徴的な飛び方をする。「ジェ」「ジェー」とにごった声で鳴き、他の鳥や物の音をまねするのも上手。よく茂った林にいる。

オオタカ (タカ科)



(A)

春夏秋冬 LL ○

留鳥。目の上が白く、目の後ろは黒い。黄色い目と足が目立つ。飛んでいる時、翼にははっきりとしたしま模様が見え、胸には細かいしま模様がある。おもに中型の鳥を食べる。大きなすずどい声で「キャッキャッキャ」と鳴く。

トビ (タカ科)



(Y)

春夏秋冬 LL ○

留鳥。全体にこげ茶色で翼の裏に白い斑がある。尾羽は広げると台形になる。羽ばたかずに輪を描くように飛ぶことが多い。本来は川や海の近くにすむ。動物の死肉をおもに食べるが、人の食べ物を奪うこともある。「ピーヒョロロ」と鳴く。

キジバト (ハト科)



(S)

春夏秋冬 L ○

留鳥または漂鳥。首に水色と黒のしま模様がある。「デーデーポッポー」とさえる。

ツミ (タカ科)



メス

(U)

春夏秋冬 L ○

留鳥。少数が越冬。オスはヒヨドリくらい、メスはハトくらい大きさ(猛禽類はメスが大きいことが多い)。おもに小鳥や虫を食べる。「キーキキ」としり下がりな鳴く。街路樹など身近なところにも巣を作るが、小さいため気づきにくい。

ノスリ (タカ科)



(S)

秋冬 LL ○

留鳥。飛んでいる姿は全体に白っぽく見え、翼と腹に茶色の斑がある。尾羽は広げると扇形になる。草はらや畑でも見られ、ホバリングから急降下してネズミやカエルなどの小動物を捕まえる。「ピーヨ」と鳴くことがある。

コジュケイ (キジ科)



(Nm)

春夏秋冬 L △

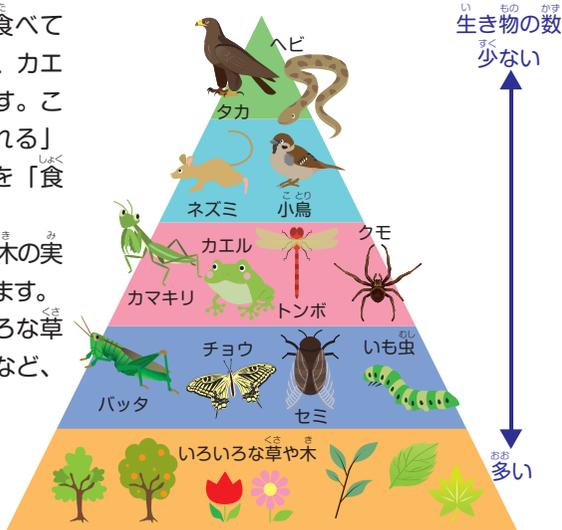
留鳥。すんぐりとした体。大きな声で「チョットコイ」とさえる。中国原産の外来種。

自然のつながりを考える

野生の生き物たちは他の生き物を食べて生きています。例えば、虫が草を食べ、カエルが虫を食べ、ヘビがカエルを食べます。このように生き物は「食べる、食べられる」というつながりを持っていて、これを「食物連鎖」といいます。

野鳥もこの中に含まれ、小鳥は虫や草木の実を食べる一方で、タカやヘビに食べられます。

野鳥が生きていくためには、いろいろな草木や虫が生きている林や湿地、草はらなど、豊かな自然環境が必要なのです。



↑魚を捕まえたカワセミ



↑木の実を食べるメジロ



↑タカに食べられたカワラバトの卵

日本で増えてしまった飼い鳥たち

美しい姿や鳴き声のためにペットとして外国から連れてこられ、逃げたり捨てられたりして日本の自然の中で暮らす鳥がいます。大和市では、ワカケホンセイインコやガビチョウ、ソウシチョウなどが見つかっています。彼らは日本の鳥たちの住む場所や食べ物を奪ってしまい、問題になっています。特に、ガビチョウとソウシチョウは日本の生き物への影響が大きいことから特定外来生物に指定されています。



↑ガビチョウ



↑ソウシチョウ



↑ワカケホンセイインコ

さくいん

ア アオゲラ …… 16	キビタキ …… 14	ハシボソガラス …… 7
アオサギ …… 12	キンクロハジロ …… 11	バン …… 11
アオジ …… 14	ゴイサギ …… 12	ヒドリガモ …… 10
アカゲラ …… 16	コガモ …… 10	ヒバリ …… 9
アカハラ …… 15	コゲラ …… 16	ヒヨドリ …… 2、8
アトリ …… 8	コサギ …… 12	ヒレンジャク …… 16
イカル …… 15	コジュケイ …… 17	ホオジロ …… 9
イカルチドリ …… 13	コチドリ …… 13	ホシハジロ …… 11
イソシギ …… 13	サ シジュウカラ …… 4、6	マ マガモ …… 10
イソヒヨドリ …… 8	シメ …… 15	マヒワ …… 15
ウグイス …… 14	ジョウビタキ …… 7	ミソサザイ …… 16
エナガ …… 14	シロハラ …… 15	ムクドリ …… 2、8
オオタカ …… 2、17	スズメ …… 6	メジロ …… 6、18
オオバン …… 11	セグロセキレイ …… 12	モズ …… 9
オシドリ …… 10	ソウシチョウ …… 18	ヤ ヤマガラ …… 14
オナガ …… 2、7	タ ダイサギ …… 12	ユリカモメ …… 13
カ カイツブリ …… 11、19	タヒバリ …… 13	ラ ルリビタキ …… 14
カケス …… 16	チョウゲンボウ …… 9	ワ ワカケホンセイインコ …… 18
ガビチョウ …… 18	ツグミ …… 9	
カルガモ …… 10	ツバメ …… 8	
カワウ …… 11	ツミ …… 17	
カワセミ …… 10、18	ドバト …… 7	
カワラバト …… 7	トビ …… 17	
カワラヒワ …… 8	トラツグミ …… 15	
キアシシギ …… 13	ナ ノスリ …… 17	
キジバト …… 17	ハ ハクセキレイ …… 6	
キセキレイ …… 12	ハシボトガラス …… 7	



↑カイツブリの親子

参考・引用文献 「大和市の脊椎動物」大和市動植物総合調査会編 1990年 大和市教育委員会発行
 「神奈川の鳥2006-10 -神奈川県鳥類目録IV-」日本野鳥の会神奈川支部編 2013年 日本野鳥の会神奈川支部発行
 「山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥」叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄著 2014年 山と溪谷社発行

2018年3月発行

禁無断複製・転載

- 発行：大和市（環境農政部みどり公園課）
〒242-8601 神奈川県大和市下鶴間1-1-1 ☎046-260-5451
- 編集：（公財）大和市スポーツ・よか・みどり財団
大和市自然観察センター・しらかしのいえ 歳清勝晴、佐藤智寿
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳1728 ☎046-264-6633
- 監修：大畑孝二（（公財）日本野鳥の会 施設運営支援室室長）
- 協力：しらかしのいえボランティア協議会、大和市トコロジスト
- 編集協力：环富智男、小川寿美子、世古全良、高久孝、中村美津子、萩原陽子、細萱喜代子、本田実
- 写真提供：赤松義幸（A）、臼田恒二（U）、小川寿美子（O）、小林勉（Kb）、小林力（Kr）、佐藤智寿（S）、中島博（Nj）、中村美津子（Nm）、細萱喜代子（H）、山崎隆嗣（Y）
- 印刷：松代印刷株式会社